

# 多摩ボランティアセンターについて

2021年度 多摩ボランティアセンターの活動の概要 (大崎 雄二 多摩ボランティアセンター長) . . . . .	99
2021年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計 . . . . .	102
2021年度 多摩ボランティアセンター～学生スタッフのことは～ . . . . .	103
2021年度 多摩ボランティアセンターイベントカレンダー . . . . .	105
2021年度 多摩ボランティアセンター活動の報告 . . . . .	107

## 多摩ボランティアセンターの活動の概要

### 多摩ボランティアセンター2021年度活動の総括

多摩ボランティアセンター長 大崎 雄二

2020年度に続き、2021年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、対面をはじめとするさまざまな活動を休止、延期、変更せざるをえなかった。東京都では、「緊急事態宣言」が2021年4月25日～6月20日、7月12日～9月30日、「まん延防止等重点措置」は4月5日～9月30日、2022年1月9日～3月21日と断続的に発令された。このため10月から12月までの3か月間に限り感染防止に万全の対策をとりながら慎重に活動を一部再開する試みをするにとどまった。

この奇禍に直面し、活動を自粛せざるをえない事態となり、多摩ボランティアセンターは昨年、創設以来の二つの基本方針——「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」と「地域との絆の強化」という原点に立ち返り、新しい発想と方法で活動の再構築を考えていくことを学生スタッフたちとともに確認した。

オンラインの学習会、献血、さまざまな防災企画、交流、そして地域の方々を多摩キャンパスに招いての「竹カフェ」など、コロナ禍のなかで靴ひもがまだしっかりと結べてはいないままでのスタートではあるが、「リセット」あるいは「再起動」後の第一歩として、進む方向だけは間違っていないものと考えている。

「再起動、再構築のスタートは、まず多摩キャンパスから」。これまでの被災地支援や地域との交流の経験を活かし、「災害列島」で暮らす我々自身が被災者になることを想定しながら一歩ずつ確実に歩み出そうとしているところだ。

#### (1) 学生スタッフの募集

9月に新入生歓迎祭をおこなわざるをえなかった2020年度と異なり、ガイダンス、新入生歓迎祭とも4月に実施できた。36人がブースを訪れ、7人が学生スタッフとして登録した。Twitterやwebも利用した学生スタッフの努力もあり、昨年の数を上回った。

#### (2) 活動（開催日時順）

##### 1) 学生スタッフ学習会（オンライン、zoom）

① 6月28日（月）「学生にとってのボランティアの意義、コロナによる困窮者への支援」  
宮城孝（現代福祉学部教授、前・多摩学生センター長、元・多摩ボランティアセンター長）

② 7月6日（火）「たのしいボランティアスタートするための始めの一步」 橋本空（財団法人町田市地域活動サポートオフィス職員、前・学生スタッフ、現代福祉学部卒業生）

③ 8月12日（木）「今日からやってみよう！実践編」 橋本空  
多摩ボランティアセンターの状況がよくわかる教員と卒業生をスピーカーに迎え、具体的でわかりやすい話と問題提起、ワークショップであった。出席した学生スタッフからも積極的な質問や発言が相次いだ。

##### 2) 多摩キャンパス

##### ① 献血（7月20日〔火〕、11月9日〔火〕）

東京都赤十字献血センターからの要請に基づき実施。献血車が多摩キャンパスに来て、献血を呼びかけた。受付と献血車への誘導、案内を手伝った。7月は2年ぶりの実施であったが、予想を上回る献血があり、11月の再実施につながった。骨髄バンクにも複数の登録があり、来年度以降も協力の要望があった。

##### ② 防災企画（10月16〔土〕～17〔日〕）

「第74回自主法政祭多摩地区」で、学生スタッフが防災をテーマに多摩キャンパス内の防災設備や備蓄品、防災マップなどを展示、説明し、大学の備蓄品の一部であるウエットティッシュと町田市市民生活安全課から提供があったシールを配布。町田市NPO法人「クローバーの会」の製品の委託販売も実施。町田市市民生活安全課の課員も参加し、学内だけでなく、NPO関係者など外部からの来場者が多かった。

### 3) 地域

#### ① 清掃活動（6月30日〔水〕、10月20日〔水〕、12月9日〔木〕）

多摩キャンパスの近くにある八木重吉記念館の清掃、除草。八木重吉（1898-1927年）は詩人。戦後に小林秀雄らに高く評価され、全集などが出版された。記念館は、多摩キャンパスと同じ1984年に故郷の町田市相原町に開設された。

#### ② 相原中央公園スポーツイベント～FUNDAY～（11月6日〔土〕）

町田市相原スポーツクラブ委員会から「2019年に開催した『走り方教室』のブースを開いてほしい」という依頼があり、第二体育会陸上競技部所属の4人と学生スタッフが参加。相原中央公園多目的広場2（スポーツ広場）で子ども向けの走り方教室を6回にわたって開いた。100人以上の子どもたちが参加し、人気を集めた。

#### ③ 紙折り花教室と販売（11月27日〔土〕）

第15回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！マルシェ&ライブコマース」

ぽっぽ町田ピロティで紙折り花の作り方のワークショップを開催。事前に学生スタッフが折花100個を準備し、ワークショップ参加費を300円とし、折花とカードのセットを200円で販売。子どもたちに人気があり、売上金5100円は、町田市財務部市民税課経由で町田市の医療従事者支援を目的として寄付した。

#### ④ 町田市 防災イベント（1）（12月5日〔日〕、オンライン）

第15回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！オンラインイベント～ぼうさい×てつがくカフェ『そなえるって、どういうこと?』～」

町田市防災安全部、まちいろドロップスなどと協力して、町田市の防災計画などを具体的に紹介してもらい、災害時の医療体制の逼迫や要支援者への対応などについて住民が一丸となって共助で支え合う仕組みづくりの重要性を議論した。

#### ⑤ 町田市 防災イベント（2）（12月12日〔日〕、オンライン）

第15回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！オンラインイベント～私たちの防災～」

ボラネット多摩やガクマチを通じて親しくなった他大学（東京都立大学東日本きずなプロジェクト、玉川大学太田ゼミ、中央大学）と共同で企画。現代福祉学部の宮城孝先生をゲストに招き、学生と地域のつながりをテーマに話を聞いた。「災害協力シミュレーションゲーム」を実施し、積極的に全員が参加する催しとなった。

#### ⑥ 「地域交流会竹カフェー 相原地区協議会大学連携事業一」（12月18日〔土〕）

応募のあった地域住民19人を多摩キャンパスに招き、学生スタッフ3人、教職員6人が接待担当となった。最初に学内バスで多摩送信所跡、経済学部の平和祈念碑、体育館、グラウンド、図書館、総合棟総長室などを巡る学内ツアーに出発。学生が案内役となり、教職員が裏方を務めた。その後、エッグドームのスローワールドカフェ（NPO法人やまぼうし・就労継続支援B型事業所）で茶菓を提供し、学生スタッフによる防災企画に参加してもらった。キャンパス内の防災設備を説明し、その後はテーブルごとのチーム対抗で地震を想定した防災クイズでたいへんもりあがった。学生手づくりの折花とバスツアーの記念写真、クイズの景品（大学グッズ）をプレゼントした。

「地震などの災害とともに被災者になったら」という想定を地域住民と共有し、全学移転を前提につくられたキャンパスや学内に残る戦争関連の諸施設などを案内するという「ふだん着」のおもてなしの企画とした。アンケートでもきわめて高い評価をいただいた。

#### ⑦ 子ども食堂（2月28日〔月〕、3月28日〔月〕）

八王子市館町の館ヶ丘団地の中央集会所で地域の民生委員、児童委員が代表となって2020年7月から毎月第四月曜日に開催されている「らみい子ども食堂」から応援の要請があった。当日の荷物や食材の運搬、配膳、来訪者対応などを手伝った。

#### ⑧ 「ガクマチ EXPO」学生活動報告会（3月21日〔月・祝〕、オンライン）

町田、相模原地域で活躍する学生団体（サークル、ゼミなど）と地域で活動する団体などが交流を深めるイベント。町田市生涯学習センターが主催し、学生団体の活動報告とテーマ別にグループ討論をおこなう交流の企画があった。ファシリテーター2人は法政の学生スタッフで、運営の中心となって活躍した。

### (3) 今年度の振り返りと今後について

地域貢献活動への助成金「地域にスマイルを届けよう活動助成金」についても、2年連続で申請がなかった。被災地支援や子ども支援、地域支援など、これまでそれぞれのチームとして活動してきた学生スタッフも人数が減ってしまった。

そのかわり、「多摩ボランティアセンター学生スタッフ」としてのアイデンティティを第一に動く全員参加型の活動がだんだん増えてきた。今後は、3キャンパスの学生スタッフが一体となって「法政大学ボランティアセンター学生スタッフ」というアイデンティティをトップに置いて一緒に活動できるようになってほしい。これは、本来あるべき全学ボランティアセンターと各キャンパスセンターとの連携の強化、深化、そして今後の具体的な協働の推進にかかっている。

多摩キャンパスでは、他のキャンパスセンターと違って、多摩地域交流センターとの関係の調整という課題もある。この問題については、2022年度、関係部局とさらに調整を進めていくことで合意できている。

2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の流行という先行きが見通せない状況のなか、いわば「スリープ」状態のまま2年が過ぎた。模索と試行錯誤を重ねていくしか選択肢が与えられていないなか、2021年度、多摩ボランティアセンターは学生スタッフとともに原点に立ち戻って、恐る恐る「再起動」の操作をしてみた。2019年度まで＝「コロナ前」の経験の蓄積を財産にしながら、「コロナ後」を見据え、「再起動」のままでいいのか、それとも新しい Operating System (OS) に入れ替えて新たに起動させるのか、試行錯誤を重ねながらしっかりと考えていかななくてはならない。

以上

## 2021年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数(人)	学生(人)	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	41	38	3	37	20
5月	4	1	3	1	17
6月	34	34	0	34	22
7月	71	62	9	61	21
8月	0	0	0	1	16
9月	11	8	3	9	22
10月	42	39	3	38	21
11月	88	86	2	85	21
12月	43	43	0	42	18
1月	2	2	0	2	16
2月	4	0	4	0	18
3月	0	0	0	0	22
合計	340	313	27	310	234

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

## 多摩ボランティアセンター ～学生スタッフのことば～

### (多摩ボランティアセンター統括)

多摩ボランティアセンターでは学生スタッフがそれぞれに興味のある分野のボランティアに参加したり、企画したりしています。地域交流・防災・清掃など多岐にわたるボランティア活動を行っています。

コロナ禍以前は、多摩ボランティアセンター内で宮城県の気仙沼や熊本での被災地支援活動を行うグループが存在していましたが、グループのメンバーの卒業・進級、ウイルスによる情勢の悪化の影響もあり、存続することが厳しい状況になってしまいました。しかしながら、その中でも今まで被災地支援で培ってきたノウハウを活かして、「今度は自分たちが被災者になるかもしれない」という想定を持ち、多摩キャンパスを中心とした地域で防災意識の共有、啓発に努めました。

また、地域の方々との交流にも力を入れて取り組み、多摩キャンパスを身近に感じていただくべく招待をし、お茶会を開いた「竹カフェ」、町田市の市民協働フェスティバル「まちカフェ」、同地域で活動をされる他大学の学生団体と交流を深めた「ガクマチ EXPO」など、多摩ボランティアセンターが代々行ってきたイベントも継続して再興できたことは、非常に感慨深いです。

来年度は、自分たちが一年間行ってきた「キャンパスから始める活動」をさらに広めて、より多くの人と交流を行い、活動範囲を広め、必要な支援を届けられるように貢献していきたいと思います。

2021年度 学生スタッフ代表 矢野 聖悟



まちカフェ



竹カフェ



走り方教室



多摩ボランティアセンター  
活動について

2021 年度・多摩ボランティアセンター イベントカレンダー

実施日	プログラム	団体名、講師、協力先
6月28日(月)	第1回ボランティア勉強会	現代福祉学部・宮城孝教授
6月30日(水)	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館
7月6日(火)	第2回ボランティア勉強会	町田市地域活動サポートオフィス
7月18日(日)	境川クリーンアップ作戦	境川クリーンアップ作戦実行委員会
7月20日(火)	日本赤十字社献血ボランティア	東京都赤十字血液センター
8月12日(木)	第3回ボランティア勉強会	町田市地域活動サポートオフィス
10月16日(土)～17日(日)	第74回自主法政祭多摩地区～防災企画～	町田市防災安全部市民生活安全課、NPO 法人クローバーの会
10月20日(水)	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館
11月6日(土)	相原中央公園スポーツイベント～FUNDAY～	相原中央公園、相原スポーツクラブ委員会
11月9日(火)	日本赤十字社献血ボランティア	東京都赤十字血液センター
11月27日(土)	第15回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！マルシェ＆ライブコマース」～紙折り花教室と販売～	町田市地域活動サポートオフィス、町田市市民部市民協働推進課
12月5日(日)	第15回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」オンラインイベント～ぼうさい×てつがくカフェ『そなえるって、どういうこと？』～	町田市防災安全部防災課、まちいろドロップス
12月9日(木)	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館
12月12日(日)	第15回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」オンラインイベント～私たちの防災～	玉川大学太田ゼミ、東京都立大学東日本きずなプロジェクト
12月18日(土)	—相原地区協議会大学連携事業—地域交流会「竹カフェ」	Slow World Café
3月21日(月)	学生活動報告会【ガクマチ EXPO】	町田市生涯学習センター、町田、相模原で活躍する学生団体



概要	場所	参加者数 (実数)	学生数	(内)留学生数	備考
現代福祉学部宮城先生をお招きしたボランティア勉強会	オンライン	14	9	0	
八木重吉記念館周辺の清掃活動	八木重吉記念館	10	9	0	
元学生スタッフをお招きした勉強会	オンライン	16	9	0	
境川沿いの清掃ボランティア	町田市境川	7	5	0	コロナ感染防止のため中止
受付や献血車への誘導・案内	多摩キャンパス センタープラザ前	6	6	0	
元学生スタッフをお招きした勉強会	オンライン	12	7	0	
学生スタッフによる防災マップや救助工具の展示、備蓄品・防災啓発品の配布	多摩キャンパス 経済学部棟	7	7	0	
八木重吉記念館周辺の清掃活動	八木重吉記念館	4	2	0	
子ども向けの走り方教室の運営	相原中央公園多目的広場2（スポーツ広場）	7	7	0	
受付や献血車への誘導・案内	多摩キャンパス センタープラザ前	12	12	2	
紙折り花の作り方ワークショップ	ぼっぼ町田ピロティ	5	5	0	
町田市の防災に関する講演と、参加者による意見交換会	オンライン	9	2	0	
八木重吉記念館周辺の清掃活動	八木重吉記念館	4	2	0	
他大学と合同の防災オンラインイベント	オンライン	10	3	0	
地域の方をお招きした、校内見学や防災企画による交流会	多摩キャンパス Slow World Café	28	3	0	
学生団体による活動報告会と交流会イベント	町田市生涯学習センター、オンライン	6	4	0	

# 1. 第1回ボランティア勉強会

1. 日程 2021年6月28日(月)

2. 場所 オンライン

## 3. 概要

講師に現代福祉学部教授の宮城孝先生をお招きし、ボランティア勉強会を開催。宮城先生の印象に残ったボランティアや、コロナ禍で困窮する人々についての話、今後のボランティアについてどのように考え、行動していくべきかなどをお話しいただいた。

4. 学生参加者数 9名

## 5. 参加学生の感想

今回講義を聞き、ボランティアの意義について改めて学ぶことができました。1年の頃から活動をしていたものの、昨年度からコロナという情勢により途絶えてしまい、私自身ボランティア活動につまずきを感じ、何もすることができずにいたのですが、今回のお話を聞き、この情勢の中でも改めて地域の方のニーズを、「できること」を探していきたいと強く思いました。特にコロナの影響で活動できていなかった竹カフェを、今回のコロナ禍で途絶えてしまった地域とのつながりの回復といった意義でも、活動再開の方法を模索していきたいと思いました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科3年 廣井 友香

宮城先生のご経験を聞いて、ボランティアとはコミュニケーションの一種であると改めて実感しました。私自身も一昨年、気仙沼市の公営住宅や学童保育センターでボランティア活動を実施しましたが、公営住宅の住民の方々は、東京の学生である私たちにも温かく接してくださり、センシティブなテーマである震災時の経験や避難のアドバイスも語ってくださいました。また、新型コロナウイルスという人類共通のリスクが現れると、私たちは様々な「生きづらさ」の原因をパンデミックや社会構造といった大きくて単純なフレームに帰属させがちですが、宮城先生が仰る通り、「個」に寄り添うことでその生きづらさの複雑性や多様性を理解する、ソーシャル・サポートとしてのボランティアの重要性を強く感じました。

社会学部 社会学科4年 児玉 務

### 本日の内容

- I 私にとってのボランティアとは
- II このコロナ禍において困難に陥っている人々とは
- III 「つながり」の回復（レジリエンス）としてのボランティア
- IV ボランティアセンターへの期待

宮城先生の体験に即した講義内容

### ボランティアセンターへの期待

- 先輩達は、東日本大震災、熊本地震の被災地のフィールドを自分たちで開拓  
学生らしい意義のある活動で高い評価
- 相原の竹カフェなど  
地元の住民リーダーとの深い信頼関係  
町田市と社協に3人が就職

学生たちにとって良い刺激となった

## 2. 八木重吉記念館周辺清掃ボランティア

1. 日程 ①2021年6月30日(水)  
②2021年10月20日(水)  
③2021年12月9日(木)

2. 場所 八木重吉記念館

### 3. 概要

多摩キャンパスから徒歩10分ほどの場所にある、相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館のお墓周辺と駐車場の清掃を行った。参加学生はゴミ拾いや除草作業を行った。

4. 学生参加者数 ①9名 ②2名 ③2名

### 5. 参加学生の感想

(6/30)

雑草抜きは大変だった。ただやりがいもあった。

社会学部 社会政策科学科2年 三浦 峻

今日の雑草抜きで、ボランティアは地道なことの積み重ねが大事であると感じた。

社会学部 社会学科2年 鶴永 知也

(10/20)

今回が初めての参加だったのですが、とりあえずどんな場所なのか明らかになり、大きく前進した気がします。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 矢野 聖悟

あまり清掃らしいことはできなかったが、落ち葉中心にきれいに拾うことができたと思う。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科1年 羽石 暖希

(12/9)

2回目の参加でした。今回の季節は落ち葉が多くあり、少し作業は多かったかなと思いましたが、その分成果も多くあったと思います。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 矢野 聖悟

今回、初めて参加をしましたが、記念館やお墓の場所も知らなかったので、実際に訪れることができ良かったです。着いてみると、想像よりもたくさんの落ち葉が落ちていて拾いきれるのかと少し心配になりましたが、時間がたつて全体を見てみると最初よりもかなりきれいになっていて、達成感がありました。細かい小さな葉を拾うのが大変だったので、ほうきやちりとりがあってもいいかなと思いました。

現代福祉学部 臨床心理学科1年 佐藤 菜歩



(6/30) 2019年度以来の清掃活動



(6/30) 充実した活動となった



(10/20) 落葉を中心に除去を行った



(10/20) 天気に恵まれ作業がはかどった



(12/9) 今年度最後の清掃



(12/9) 次年度も継続して活動予定

## 3. 第2回ボランティア勉強会

1. 日程 2021年7月6日(火)

2. 場所 オンライン

### 3. 概要

講師に町田市地域活動サポートオフィスの橋本空氏をお招きし、ボランティア勉強会を開催。多摩ボランティアセンター元学生スタッフの橋本氏の実体験から、ボランティアを始めるために何を考え、どう行動し、企画を立てていけば良いかなどをお話しいただいた。

4. 学生参加者数 9名

### 5. 参加学生の感想

今日は勉強会を開いてくださりありがとうございました。ボランティアを立ち上げるなど、自分にはない視点からお話を聞けて、もっと早くお聞きしたかった…！と思いました。新しくボランティアセンターに入ってくれた1,2年生も意欲に繋がったと思います。「ボランティアとは何か」という問いが印象的でした。できることより楽しめることを増やすという橋本さんの考え、とても素敵でした。これから活動するにあたって橋本さんのこの考えを取り入れていきたいです。

社会学部 メディア社会学科3年 今井 彩里衣

ボランティア活動の先輩である橋本さんからご自身の経験談や活動に対する想いを詳しくお伺いする場はこれまで無かったため、大変貴重な機会になりました。これまで相原・町田地域と多様な繋がりを築かれてきた所以が、個人または団体として明確な目的や目標を持ち、異なる世代の意見を尊重し、異なる地域の活動を学ぶといった姿勢にあるように感じました。新しくボランティアセンターに所属してくれた学生を巻き込みながら、学生スタッフとしての主体的なボランティア活動を今後とも広げていきたいと思っています。特にまちカフェでは他団体さんとのコラボ企画を実現したいと考えているので、引き続きサポートいただけると幸いです…！ 大変貴重なご機会をいただき誠にありがとうございました。

社会学部 社会学科4年 児玉 務



元学生スタッフをお招きした勉強会



今後につながる充実した内容だった





## 5. 第3回ボランティア勉強会

1. 日程 2021年8月12日(木)

2. 場所 オンライン

### 3. 概要

前回(7月6日)の勉強会に引き続き、講師に町田市地域活動サポートオフィスの橋本空氏をお招きし、ボランティア勉強会を開催。第2回ボランティア勉強会の内容を踏まえ、「ボランティア企画の立て方や進め方」について、ワークショップを交えて実践的に学んだ。

4. 学生参加者数 7名

### 5. 参加学生の感想

私自身、大学と地域に関わる企画作りは初めてだったのですが、講師の方の話に加え周りの学生の方とも意見交換ができ大変勉強になりました。勉強会を通し、『誰にとっても参加したいと思えるイベントかどうか』は企画作りにおいて非常に重要だと感じました。学生目線だけで考えるのではなく、大学や地域住民など参加者全員を配慮した企画にすることで、イベントの満足度も大きく変わってくると感じます。企画作りの時だけでなく、イベントに参加する側になった時も視野を広げて活動するよう心がけようと思いました。

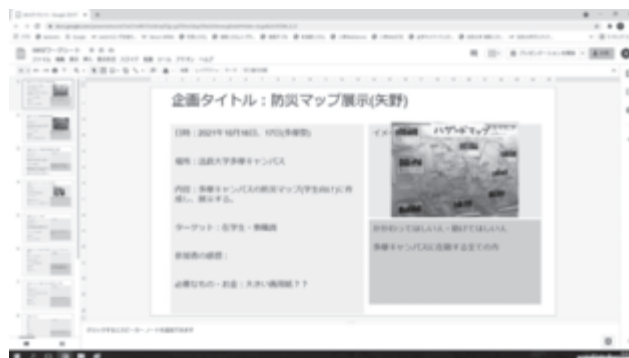
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科3年 菅原 柊人

今回の勉強会で1番印象に残ったのはボランティアとは『できることより楽しめること』を増やすこと、自分の楽しいをシェアできる活動を広めていくこと、というメッセージでした。確かに自分が楽しいことでないと長続きしません。ボランティア活動をする上で、常に「偽善」なのかという問いは避けられませんが、この自分の「楽しい」や「面白い」をシェアするという考えが腑に落ちました。ボランティアセンター学生スタッフのメンバー同士でも個々の「面白い」をシェアしていける関係を築いていきたいです。

社会学部 メディア社会学科3年 今井 彩里衣



実践編としてワークショップ形式で進行



学生たちが考案した企画例



## 6. 第74回自主法政祭多摩地区(多摩祭)～防災企画～

1. 日 程 2021年10月16日(土)～17日(日)

2. 場 所 多摩キャンパス 経済学部棟2階 215教室

### 3. 概 要

第74回多摩祭にて、学生スタッフが「防災」をテーマに、防災マップと備蓄品・防災備品の展示を行った。そのほか、町田市防災安全部 市民生活安全課の依頼を受け、「防災啓発品を身に付けよう！」キャンペーンや町田市のNPO法人クローバーの会の自社製品の委託販売も同ブースで実施した。

4. 学生参加者数 7名

### 5. 参加学生の感想

多摩祭には他団体の活動があり、結局のところ1時間程しか参加出来ませんでした。配布物、掲示物ともに工夫を凝らした見やすいものができ、安心して参加することができました。

社会学部 メディア社会学科3年 今井 彩里衣

初めての多摩祭で勝手がわからず、最初はとても不安でしたが、前日準備から参加でき、とても楽しい経験をさせていただきました。当日はシフトに入っていた時間が短かったため、時間内にあまり来場された方がいらっしゃらず残念でしたが、町田市役所の方ともお話することができ、来年の多摩祭についてのイメージを持つことができ、非常に有意義な時間を過ごせました。

現代福祉学部 臨床心理学科1年 佐藤 菜歩



防災備蓄品の展示



町田市やNPO法人の方々との協働ブース

## 7. 相原中央公園スポーツイベント ～ FUN DAY ～

1. 日 程 2021年11月6日(土)
2. 場 所 相原中央公園 多目的広場2(スポーツ広場)
3. 概 要

町田市相原中央公園スポーツ広場で行われた子どもを対象としたスポーツイベントの運営補助として参加した。学生は「走り方教室」のブースを担当し、子どもたちに正しい走り方の指導や50メートル走のタイム測定を行った。

4. 学生参加者数 7名

### 5. 参加学生の感想

陸上部の人にも手伝ってもらい、小学生向けの走り方を、ポイントを伝えながら教えました。小さい時からの継続が将来の体の基本となるので、教えたみんなに足が速くなってほしいです。自分も“走り”の基礎を振り返ることができ、子どもたちと触れ合うのが楽しかったので良い経験となりました。

社会学部 メディア社会学科3年 大島 瑞稀

最初は緊張と不慣れなところがありあたふたしてしまいましたが、指導を重ねることに要領を掴んできて、一人一人への声がけも行いながら自信を持って教えることができるようになりました。私が指示したことを一生懸命行い、走って戻ってきてくれる小学生はとても可愛くて、すごくすごく楽しい時間でした。今後もこのような児童向けに指導やサポートをする機会があったら、走り方の指導に限らず参加させていただきたいです。貴重な体験の機会をくださり、ありがとうございました。

スポーツ健康学部 スポーツ健康学科3年 新井 涼香



50メートル走のタイムを測定



大勢の子どもたちと触れ合った

## 8. 日本赤十字社献血ボランティア

1. 日程 2021年11月9日(火)  
2. 場所 多摩キャンパス センタープラザ前

### 3. 概要

多摩キャンパスにて献血協力を呼び掛けた。参加学生は当日来場者の受付や案内など、補助ボランティアを行い、43名が献血に協力し、4名が骨髄バンクにドナー登録した。

4. 学生参加者数 12名

### 5. 参加学生の感想

待っている方や赤十字病院の方、他のボランティアの方と適切にコミュニケーションが取れたので良かった。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科1年 羽石 暖希



協力の呼びかけ



テント内で順番を待つ学生たち

# 9. 第15回町田市市民協働フェスティバル 「まちカフェ！マルシェ＆ライブコマース」 ～紙折り花体験教室と販売～

1. 日程 2021年11月27日(土)

2. 場所 ぽっぽ町田ピロティ

### 3. 概要

町田市内で活動するNPO法人や市民活動団体が互いの活動を知り、交流を深め、参加した市民の皆さんが地域で活動するきっかけ作りの場になることを目的としたイベント。学生スタッフのブースでは、折り紙で立体的な花を作るワークショップを行い、売上金額は医療支援を目的に、全額町田市に寄付をした。

4. 学生参加者数 5名

### 5. 参加学生の感想

特に子どもたちからの人気が高く、参加したメンバーも丁寧かつ温かい対応を心がけました。また、ボランティアセンターとしては、イベントの設営撤去まで一貫して関わることができたため、町田のNPO法人や社会福祉協議会、町田市地域活動サポートオフィスといった多くの地域団体の方々と改めて充実した交流を行うことができたと感じています。

社会学部 社会学科4年 児玉 務

年齢層的には少し高めの方が多く参加される中で、来てくれた小さなお子さんには確実に興味を持っていただけたので、それはとても嬉しかったです。当日参加された他の団体さんも商品や装飾が凄かったのもっと工夫できた点はあったかと思いました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 矢野 聖悟



学生たちが作り方をレクチャー



たくさんの方にご参加いただいた

## 10. 第15回町田市市民協働フェスティバル 「まちカフェ！」オンラインイベント ～ぼうさい×てつがくカフェ～『そなえるって、どういうこと?』

1. 日程 2021年12月5日(日)

2. 場所 オンライン

### 3. 概要

地域団体と協働で開催したオンラインイベント。町田市防災安全部防災課の方から町田市の防災について講演していただいたほか、万が一災害に直面した場合の仕組みづくりとその重要性について参加者全員で議論を交わした。

4. 学生参加者数 2名

### 5. 参加学生の感想

双方の企画を通して、町田市とその地域団体の方々と防災意識を共有することができたため、今後の活動にも連携が期待できると感じたことが最も印象的でした。ボランティアセンターの学生スタッフとしても引き続き、防災啓発活動に注力して行ってほしいという思いが強いです。

社会学部 社会科学科4年 児玉 務



学生スタッフが司会を担当



町田市防災安全部防災課の方による講話



# 11. 第15回町田市市民協働フェスティバル 「まちカフェ！」オンラインイベント ～私たちの防災～

1. 日程 2021年12月12日(日)

2. 場所 オンライン

### 3. 概要

他大学の学生との協働企画。防災アイテムカタログ製作や防災訓練教材を使用したシミュレーションゲームを行った。

さらに、ゲストとして、法政大学現代福祉学部の宮城孝教授をお招きし、ご自身の被災経験のほか、学生と地域とのつながりという視座から防災についてのお話を伺った。

4. 学生参加者数 3名

### 5. 参加学生の感想

ご参加いただいた方からも積極的に、ゲームや対話のイベントで質問等をしていただき、とても盛り上がりました。自分は防災のゲームへの参加と講演会の司会を務めましたが、どれもいざ大きな地震が起きた時のトラブルとして、家庭内だけでないような広い範囲の地域に向けたものであったり、ストレスや不安など精神的な問題についてであったりと、これまであまり考えることのなかったよりリアルで具体的なことについて考えることができました。

社会学部 社会学科3年 山中 一智也



開催告知用のwebページ

## 12. - 相原地区協議会大学連携事業 - 地域交流会「竹カフェ」

1. 日程 2021年12月18日(土)

2. 場所 法政大学 多摩キャンパス

### 3. 概要

地域の方々をお招きし、多摩キャンパスの見学ツアーと学生スタッフによる防災企画を実施した。多摩キャンパスに存在する史跡や施設を学生の説明とともに案内し、EGG DOME 2階食堂のSlow World caféで、学内にある防災設備や備蓄品の紹介と防災クイズを行った。地域の方々19名と教職員6名、学生スタッフ3名の計28名が参加した。

4. 学生参加者数 3名

### 5. 参加学生の感想

バスや各地点での解説や話をした。大変ではあったが色々な人と交流できたので良かったし、日頃使っている施設の知らなかったことなどを知ることができて楽しかった。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科1年 羽石 暖希

司会・進行を務めたことも非常に良い経験になりましたし、純粹に参加者のひとりとしても驚きの連続で楽しかったと思いました。参加者の方々にも楽しんでいただけたらと思い、スムーズな進行を心がけました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 矢野 聖悟

今回の竹カフェでは、初となる防災企画を実施しました。災害時は『自分の命を守らなければ誰かを支えることはできない』ということを中心に、発災時と発災直後の行動指針についてクイズを作成しました。ポイント制の競争を取り入れたため、盛り上がる事ができてきています。

社会学部 社会学科4年 児玉 務



キャンパス見学ツアー



学生による防災企画



# 13. 学生生活活動報告会【ガクマチ EXPO】

- 1. 日程 2022年3月21日（月・祝）
- 2. 場所 町田市生涯学習センター、オンライン
- 3. 概要

主に町田・相模原で地域活動を行う大学の学生団体が、地域の方々へ向けた活動のPRや学生間の交流を行うイベント。昨年度に引き続き、オンライン生配信での開催となった。

本学学生スタッフ4名を含め、11団体が参加した。

- 4. 学生参加者数 4名

### 5. 参加学生の感想

今回のガクマチ EXPO では、学生ファシリテーターとして司会進行を務めました。私が特に注力したのは、学生団体によるトークセッションの企画と実施で、初となるラジオ風のトークセッションを実施しました。11団体という過去最多の団体数であったこともあり、個々人の活動に対する思いを打ち明けることができるような場としてこの企画が機能したことは非常に良かったと感じています。

社会学部 社会学科 4年 児玉 務

今年度の「ガクマチ EXPO」に私は、学生団体のまとめ役である、「学生ファシリテーター」として参加しました。今年度のガクマチは過去最高の11の学生団体が参加ということで、準備物が揃わない等大変な点もありましたが、これまでにない意見が出て、盛り上がる場面もたくさんありました。本番も大盛況で多くの方に視聴していただけて良かったです。関わっていただいた皆様ありがとうございました。

現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 4年 海老沢 真由

ガクマチ EXPO で行われた企画はどれも、参加団体の個性と強みが見えるもので、本番当日はとても楽しく、あっという間でした。参加者も参加団体もとても多かったですが、どの団体の活動内容も伝わり、トークイベントも交流会も良い雰囲気でも盛り上がりました。今後も、参加者同士の個性が出て、それぞれが楽しんでいけるようなイベントを企画していきたいです。

社会学部 社会学科 3年 山中 一智也

